

平成 14 年度環境科学センター研究推進委員会課題評価結果

2 重点経常研究

(2) 「新規規制有害物質の処理に関する研究」

[総合評価とコメント]

実用化を考えてプロセスまで含めた開発を目指していただきたい。

水処理そのものについては民間で多様な取り組みがあるので、県の機関でやることの独自性を強調すべき。前処理技術にも重点を置いて欲しい。

個々の相違の大きい排水を対象としているので現実的なシステムの組み立てを考えることが重要。個別事例への寄与も重要。しかし、研究成果としての一般化も欲しい。

重要な研究課題と思います。新規規制有害物質を全て扱うとするとたいへんな労力だと思いますので、ある程度プライオリティをつけたうえでの研究にする必要があるのではないかと思います。研究成果が処理方式の標準化などに結びつけば社会的にもインパクトのある研究になると思います。

ニーズは大きいと思うが、3年後の規制本格化に向けて網羅的に実施して間に合うのかという疑問がある。最もニーズが大きいところに集中してはどうか。

緊急に解決しなくてはならない課題のため、研究の継続と緊急性が必要と考える。

(数値的評価)

評価者 6 名

< 評価の内容 >	< 評価項目 >	< ランク >				
課題設定の妥当性	背景と必要性	1 (4 人)	2 (2 人)	3 (0 人)	4 (0 人)	5 (0 人)
	優先性	1 (3 人)	2 (3 人)	3 (0 人)	4 (0 人)	5 (0 人)
計画の立案と実施法	研究内容	1 (1 人)	2 (4 人)	3 (1 人)	4 (0 人)	5 (0 人)
	計画の妥当性	1 (2 人)	2 (3 人)	3 (1 人)	4 (0 人)	5 (0 人)

凡例 1:よい 2:概ねよい 3: 問題点あり 4: 全面的見直し必要 5: わからない